

横川流域入天神沢 1993年8月1日

L!

橋より入渓する。歩き始めると、すぐに水流はゴーロの下に隠れてしまった。F₁ 2段 7m と F₂ 12m を越えると、ハングになっている F₃ 10m である。滝の中段の裏側より捲こうとしたが、ちょっとヤバイ。結局左岸の小沢ぞいに捲く。

F₄, F₅ を越え F₆ 4m を過ぎると二俣となる。いったん右に入るがすぐに水がなくなり遊行終了。二俣まで戻って今度は左に入るが、これも 2m の小滝を越えるとすぐにヤブがかかってきたので、遊行終了とする。

帰路は右岸の登山道を下るが、不明瞭な部分が多く、所々ヤブの中に消えてしまっていた。

(記・

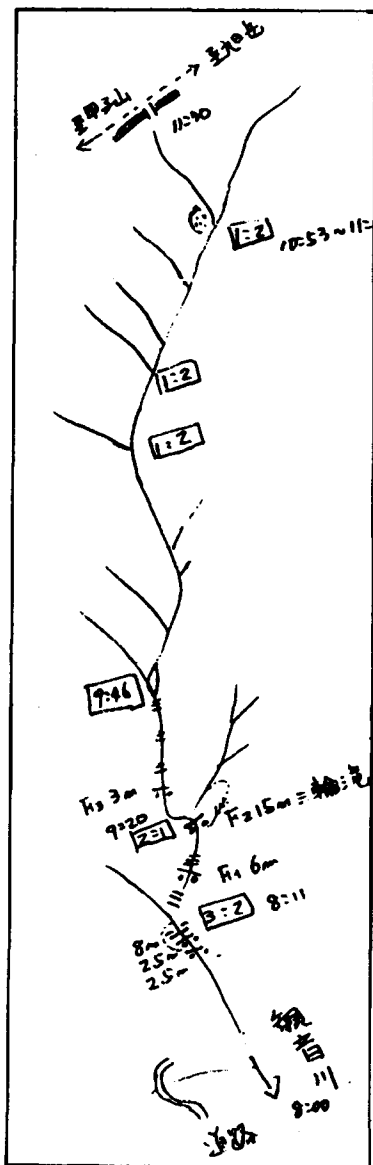
[タイム] 出合(7:50)→二俣(9:15)→右沢終了(9:25)→二俣(9:40)→左沢終了(9:50)

那須山系観音川右俣

1993年6月12日

L!

御前8時、道路に車を置いて沢に入る。小滝とその上の堰堤を左より捲くと、旭岳につき上げる観音川右俣出合である。右俣に入るとナメがあり、すぐ F₁ 6m。なんなく越える。F₂ 15m 三輪滝は、右のガリー状のくぼ地を登って捲く。捲き終わった最初に出会うのは支沢で、本流と思って登り始めたもののすぐに様子がおかしいと思い、滝のところまで引き返して本流に入る。



F₁ 3 mを過ぎるとナメがチョクチョク出てきて二俣。そしてその後は河原歩きとなる。支沢がいくつも合流するのを見送りながら河原歩きを続け、稜線上の登山道に最も近い支沢が合流するのを待つ。目的の支沢に入ると、すぐ登山道に出て遊行を終える。あとは甲子山に登り、甲子峠経由で車子泊地まで歩いた。沢としてはちょっと物足りない感じであった。 (記・)

[タイム] 出合(8:00)→右俣出合(8:10)→遊行終了(11:30)→甲子山(12:00)

中の沢から豪士山

1993年11月23日

秋のキノコ採りをかねて、普段はめったに登ることもない豪士山へ、中の沢林道終点から登ってみる。中の沢林道終点までは車。そこから沢ぞいに登る。主稜線には霧氷が見事についていた。沢の左岸の踏跡をたどって登り、途中からブナの斜面に入る。ここはかなりの傾斜で、おまけに雪が1cmほど積もっている。慎重に登る。傾斜が緩くなってくると、まもなく支稜線。そこからさらに登って1002mピークの直下で踏跡に出る。これは2.5万分の1地形図にも出ているはっきりとした踏跡で、柳沢林道から尾根に上がって、豪士峠へと続いている。

踏跡を北に向かって進む。気温が上がってきたので、ブナの梢の霧氷が融け、ミゾレのようになって降ってくる。峠近くになると、背丈ほどの灌木やネマガリダケのブッシュが行く手を阻む。苦勞して豪士峠に出、県境尾根をたどる。県境尾根にはきれいな道が付いていた。

踏跡を北に向かって進む。気温が上がってきたので、ブナの梢の霧氷が融け、ミゾレのようになって降ってくる。峠近くになると、背丈ほどの灌木やネマガリダケのブッシュが行く手を阻む。苦勞して豪士峠に出、県境尾根をたどる。県境尾根にはきれいな道が付いていた。